

はじめに

職務発明は、21 世紀の技術企業の話頭

問："一人で地球を持ち上げられる方法は"

答："逆立ち"

上記の問答は寒い話で知られていますが、筆者はここに科学的真理が含まれていると思います。上下がない地球は、一日に一回自転し、1年に一周太陽の周囲を公転しています。今この瞬間にも私たちは地球と一緒に猛スピードで動いていますが、地球が動くので、自転と公転を感じないのです。偉大な科学的な発見や発明は、私たちが疑いもなく見過ごしている現象に対する疑問提起からスタートしました。この疑問がすなわち‘スパーク (spark, 閃光)’ になって火花が散ったのです。それなら‘(地球に上下がないので) 逆立ちをする必要もなく、私の足で地球を持ち上げているのではないか’ という疑問を提起しても良いのではないのでしょうか。

筆者はそのように誕生する発明・特許と職務発明に関する仕事をしながら、多くの科学技術者に会いました。彼らは多くの人々が擦れてしまう問題を逃すことなく創造的なアイデアで課題を解決してきました。それにもかかわらず科学技術者たちは、発明・特許に関する法律的な知識が不足し、多くの場合、うろたえることもあります。一方、従業員の科学技術者の職務発明をどのように管理・処分し、改良・発展させるかの問題は、21世紀の技術企業の主要なテーマです。そこで、筆者は発明・特許および職務発明に関するハンドブックとして、この本を準備することになりました。

筆者が行った複数の事例や研究内容を問答式に解説したこの本は、職務発明をテーマにしながら、特許法、民法、憲法、製造物責任法など、科学技術の時代を生きる21世紀のすべての人が知っておくべき事項に対して見解を示しています。特に、順序の配置に細心の注意を払っております。問1～3は職務発明の代表事例、問4～27は基本的な概念整理、問28～30は職務発明補償金の計算、問31～36は職務発明に関する他の法令との訴訟、問37～40は発明の譲渡代価計算の各因子、41～47は韓国の事例、問48～52は日本の法令や事例、問53～60は制度、政策、法令、帰結点などで構成しました。

外国の事例や関連法令（日本語、中国語、英語など）は、原文を損なわない範囲で韓国語に一つ一つ丁寧に翻訳しており、60個の質問の一つ一つを目次に配置することに編集上の問題があると出版社の提案を受け入れて目次をキーワード形式で整理したことをご了承ください。従って、索引を作成して重要な項目や用語を簡単に見つけることができるようにしました。

そして、付録1の関連法令は、便宜上、読者の皆さんが参照する必要がある部分だけを抜粋して載せており、特に国民提案規定は、国民誰もが良いアイデアを政府に提案する制度のことです。付録2にある2編の記事は<法律新聞>に載せたことを読者の便宜のために一部修正して掲載しています。

この本の礎石となった"職務発明 60 問答"（初版 2008 年、第 2 版 2009 年）を出版した印刷ゴール出版社ナムギス代表者および従業員の皆さんに心から感謝申し上げます。

ます。その本をもとに大幅に修正し、補完して揚文出版社から"アイデアスパーク - 科学技術者のための職務発明ハンドブック"を再び読者の皆さんに出すことになりました。この書籍が刊行されるまでに手間を惜しまなかった 揚文出版社キムヒョンジョン代表及び従業員の皆さんに感謝いたします。

この本の内容は、筆者の見解であり、これを基に、読者の皆さんの見解が再構築されると思います。是非、この本が科学技術者の皆様の創意力の開発と法的知識の蓄積に参考になれば私には最高のやりがいになると思います。

2011.3. 金俊孝